

考えよう 防災のここと



【問合せ先】地域安全課消防防災係
(☎ 28-9510)

地震に対する10の備え

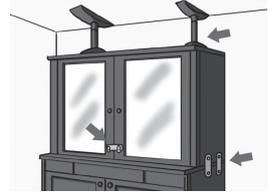
地震は、思いもよらない時に突然発生します。日頃から備えて、自分や大切な人を守りましょう。



身の安全の備え

1 家具類の転倒・落下・移動防止対策

- ▼ケガの防止や避難に支障がないように、家具を配置する
- ▼家具やテレビ、パソコンなどを固定し、転倒・落下・移動防止の対策をする



2 ケガの防止対策

- ▼食器棚や窓ガラスなどには、ガラスの飛散防止の対策をする
- ▼停電に備えて、懐中電灯をすぐに使える場所に置く
- ▼散乱物でケガをしないように、スリッパやスニーカーなどを身近に準備する



3 家屋や塀の強度を確認

- ▼家屋の耐震診断を受け、塀などの倒壊防止と併せて必要な補強をする

初動対応の備え

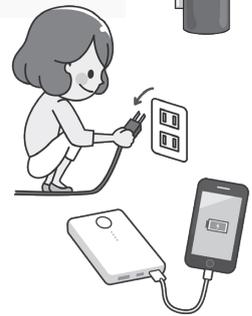
4 消火に備える

- ▼火災の発生に備えて消火器の準備や浴槽に水をためておく
- ※溺れ事故防止のため、子どもだけで浴室に入れないようにする



5 火災発生の早期発見と防止対策

- ▼火災の早期発見のため、住宅用火災警報器を設置する。また、電気による火災を予防するため、感震ブレーカー（分電盤型）などの防災機器を設置する
- ▼ふだん使用しない電気器具は、差込みプラグをコンセントから抜いておく



6 非常用品を備える

- ▼非常用品は置く場所を決めて、冬の寒さなど季節を考慮した備えをする
- ▼車載ジャッキやカーラジオなど、身の周りにあるものの活用方法を考えておく
- ▼スマートフォンの予備バッテリーなど、必要な電源を確保しておく

確かな行動の備え

7 家族で話し合っておく

- ▼地震が発生した時の出火防止対応や初期消火など、家族の役割分担を決める
- ▼家族が帰宅困難になったり、離れ離れになったりした場合の安否確認の方法や集合場所を決める。台風など風水害が同時に発生した場合の対応も想定する
- ▼避難場所や避難経路を確認する。また、近隣住民と協力体制を相談しておく



8 地域の危険性を把握する

- ▼ハザードマップで居住地域の危険度を確認し、自宅や学校、職場周辺を歩き、災害時の危険箇所や役立つ施設を把握しておく



9 防災知識を身につける

- ▼新聞、テレビ、ラジオやインターネットなどで防災に関する情報を収集する
- ▼大きな地震の後に同程度の地震が発生する可能性があることを理解しておく

10 防災行動力を高める

- ▼防災訓練に参加して、身を守る方法や、避難時の対策などを身につける

